

企業局の危機管理について ~施設の耐震化と経験力や技術力の継承~ 渡邊一夫氏 × 中島敏之氏

元県企業局長

元県企業局長



いばらきの公共事業を紐解く

中継水道事業体の締結

私は2012年(平成24)年4月、渡邊前企業局長の後任として着任いたしました。6年間、企業局長として在職しましたが、この間に所管する水道用水供給事業、工業用水道事業、地

つば市北東部の上野に、公共用としては最初の「つくばヘリポート」があります。敷地面積は約3.1ha。平成3年に開港しています。東京までの飛行時間は約20分。防災、警察等の行政用途他、航空写真撮影や報道ヘリコプターなどの着陸地として利用されてきました。このヘリポートの管理は、格納庫事業も含めて企業局が行っておりまして、私は主務、企画部時代、このヘリポート建設に大いに関わったため、懐かしい場所なのです。今回は、東日本大震災の応急復旧の目録がついた後、震災の教訓を受け、特にみなんで頑張った何点かについてお話をし、企業局長・企業公社理事長編を締めさせていただきます。(弊社HP「トピックス」に掲載)



最初は、災害査定についての手続きについても初めてです。企業局では、今回の震災まで大きな災害を受けた経験がなく、災害査定

県OBの「災害時協力員制度を設立」

三つの工業団地に優良企業を誘致すべく積極的に活動した結果、アイリスオーヤマ(株)やフナコ(株)など、工場誘致に成功し、所有する工業団地を完成させることができました。このすべての取り組みに際し、渡邊前局長に協力していただき、大変心強いことができました。その中でも特に、私が責任した前年の3月11日に発生した東日本大震災の経験と教訓から、渡邊前局長が強いリーダーシップを進めてきた企業局の危機管理の充実を力を入れて取り組みました。



▲地震などの非常時に活躍する給水車

送っている鹿島浄水場と、那珂川左岸地域の企業群に工業用水を送っている那珂川浄水場の2箇所に設置することをしました。さっそく予算化し、平成25年、26年には完成しています。夏場の電力不足の一助として緊急に整備した、水戸浄水場の1000kWの太陽光発電設備(メガソーラー)も蓄電が可能となれば、十分に自家発電設備として使えると考えました。3番目は管路の耐震化計画の見直しです。従来は液状化の危険度が高い約30kmを耐震化する計画でしたが、対象エリアを大幅に拡大し、液状化などの被害が懸念される延長約320kmの管路を概ね10年で耐震化することになりました。

茨城の公共・公益事業

歴史をたどり、後世に残す 県企業局長・企業公社理事長編⑧

管路320kmを10年で耐震化

が、大部分ストックしておいたので大変役に立ってくれました。断水しているときは、給水車とペットボトルの出番です。企業局でも、1年前から3台の給水車を用意しておきました。困っている町村への支援はもちろん、病院の透析患者さんへの命の水もお届けできたので、本当に良かったと思います。ペットボトルも必要なところに届けること



東京都の吉田水道局長と協議を重ね、覚書の締結に至りました。

くだった先輩諸氏の熱い思いや優れた技術に触れさせていただきました。このように、冒頭でもお話ししたとおり、2015年(平成27年)に経営の指針である「企業局経営戦略」を策定しました。引き続き、計画的に事業を推進する中で、災害時にも水を安定供給できるように設備の更新・耐震化などの「予防対策」や被災時における迅速・的確な対応に向けた危機管理体制の強化に取り組まれました。この危機管理体制の強化の取り組みの一つが、東京都水道局と茨城県企業局の間で2014年(平成26年)に締結した、全国初の事例である「中継水道事業体としての活動に関する覚書」の締結です。中継水道事業体とは、東日本大震災での被災地支援の際、現地に入った応援隊が被災状況を十分に把握できず、活動の拠点も思うように決まらなかった現場で、混乱が生じた反省から、日

地域開発に貢献した91年、これからも私たちの活動が拡がり続けます

Advertisement for Kokuetsu Construction Co., Ltd. featuring various construction projects and services. Includes images of schools, hospitals, and residential buildings. Text: 幸武建設株式会社 幸武グループ